



「自分を守る・大切な人を守るために」感染症対策の徹底を

全国的に新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増加し、10代・10歳未満の子どもたちへの感染も急増しています。変異株はこれまでのウイルスよりも感染力が強いという特徴があります。基本的な感染症対策は同じですが、1人1人が意識してこれまでより丁寧な対策を続けていきましょう。

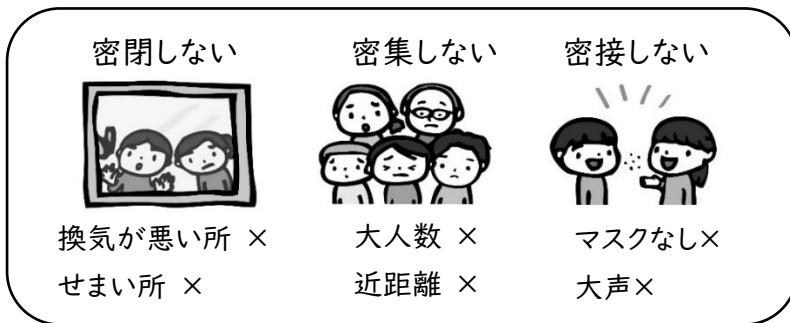
登校前の検温・健康観察をお願いします

発熱などの風邪症状がみられるときには、学校に連絡し自宅で休養してください。その他学校へ登校しない場合については、「緊急事態宣言を踏まえた学校における対応について(令和3年8月27日)」をご確認ください。

また、登校後に発熱や風邪症状などがみられた場合は、原則早退とします。「学校に持ち込まない、学校内に広げない」を基本とした感染防止対策を行っていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

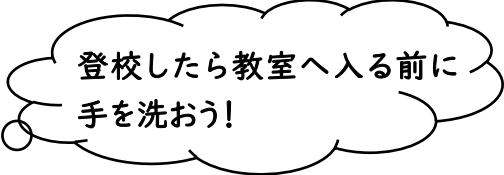
「ゼロ密」を目指そう

- 3密がそろう場面だけでなく、一つの密でも感染リスクはあります。
- 人との距離は十分に保ってください。
- 今まで以上に換気を行ってください。対角線上の2方向の窓や出入口を同時に開けます。
→学校では、原則、常時換気をします。衣服で体温調節ができるようにしてください。
- マスクをはずしたときは、人との距離をとり、会話はしないでください。
- 適切なマスクの着用をしてください。鼻出しマスク、あごマスクはやめましょう。

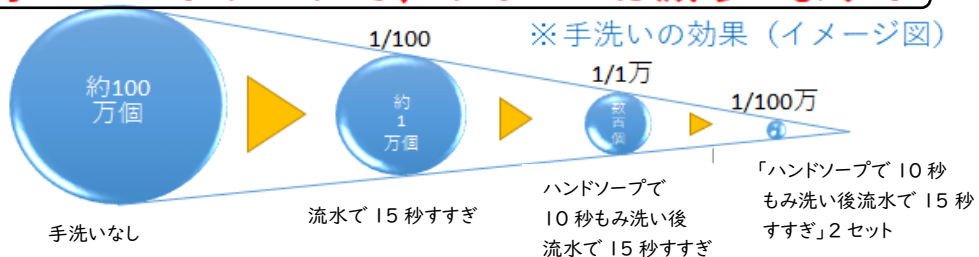


「手洗い・手指消毒」こまめに・丁寧に

- 流水と石けんで丁寧に手洗いしましょう(効果:下の図)。
- 「手洗い6つのタイミング」
 1. 外から教室へ入るとき
 2. 咳やくしゃみ、鼻をかんだとき
 3. 給食の前後
 4. 掃除の後
 5. トイレの後
 6. 共有の物を触ったとき
- 爪・指先・指の間、親指と人差し指の間、手首は洗い残しが多いところ。特に丁寧に洗いましょう。



水とハンドソープで、ウイルスは減らせます!



マスクを正しくつけよう

マスク着用の主な目的は、会話や咳などによって飛沫が飛び散ったり、吸い込んだりするのを防ぐことです。

<正しいつけ方>

マスクは自分の顔に合ったサイズを選びましょう。

- ① マスクを鼻の形に合わせ、すき間をふさぎます。
- ② 鼻の位置がずれていないか、ほほや顔にすき間がないか確認しましょう。
- ③ マスクをあご下までのばし、すき間なくフィットさせます。



***すき間があると、十分な効果が得られません。また、鼻出しマスク、あごマスクはやめましょう。**

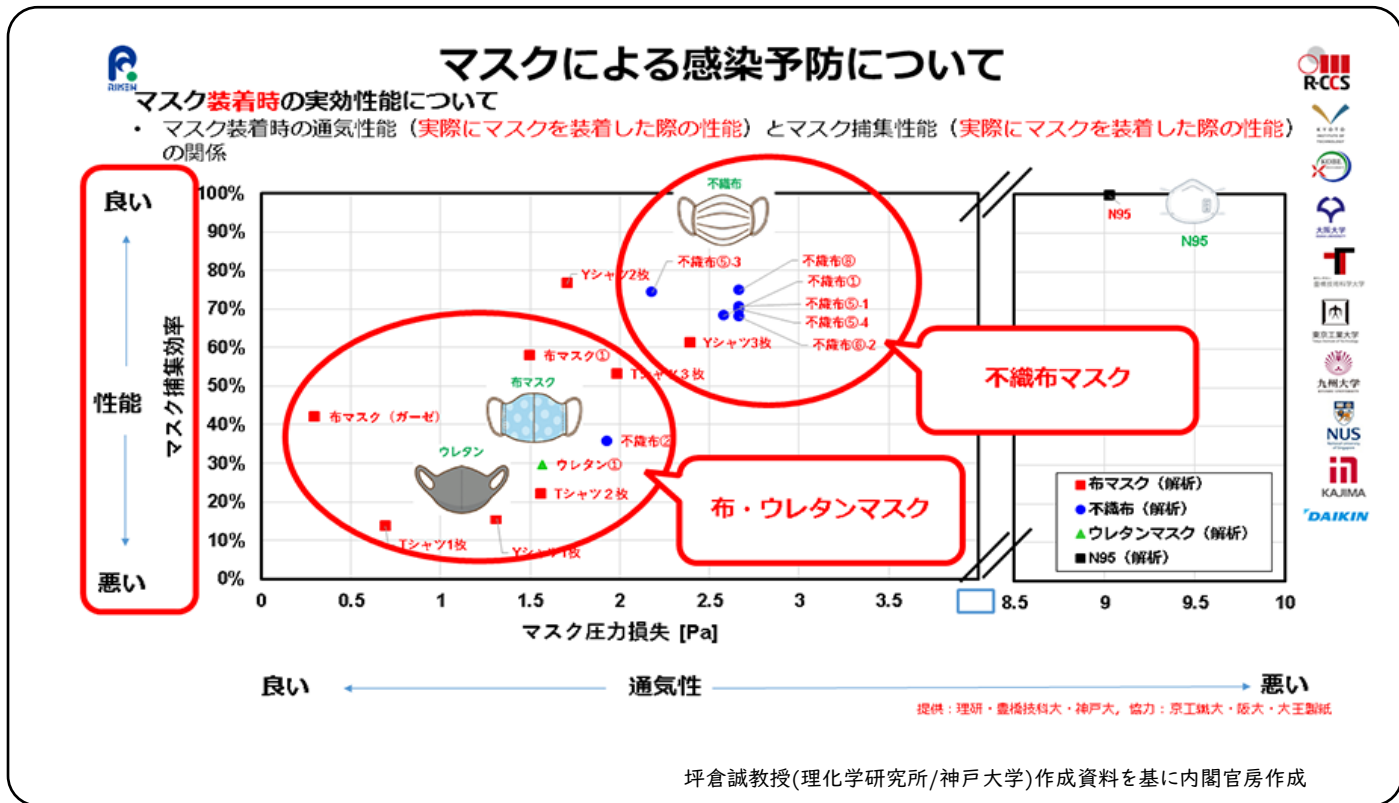
***マスクの表面は触らない。触ったら手を洗いましょう。取り外すときは、ひも部分を持ちましょう。**

<マスクの素材と効果>

近年の研究では、飛沫を出す側と吸い込む側、両者の距離感やマスクの着用状況、マスクの素材(性能)によっても、効果に大きな違いが生まれることが分かっています。

たとえば、スーパーコンピューター富岳によるシミュレーションの結果によれば、**マスクの捕集効率は、布製やウレタン製よりも、不織布素材の方が高いことが示されています。また、鼻の部分に金具がある場合は、折り曲げて鼻に沿って着用するなど、すき間のないよう顔にフィットさせた方が効果が高いことが示されています。**

三田市としては、感染防止効果の高い不織布マスクの着用をすすめています。



参考：内閣官房ホームページ「夏の感染拡大防止特設サイト」

文部科学省：学校における新型コロナウイルス感染に関する衛生管理マニュアル ～「学校の新しい生活様式」～